

ヘルスケアミーティング 2025

1 日目のメインテーマは、歯周基本治療の実践

古市貴暢（コアメンバー）

患者の人生に向き合う

私が日本ヘルスケア歯科学会に入会したのは2015年でした。当時、予防歯科を医院のシステムに組み入れようといういろんなセミナーで病因論を学び、検査を主体とした患者管理型の診療プログラムを構築しましたが、臨床の現場で患者との距離感に悩み、予防歯科を諦めようかと悩んでいました。患者の言葉より、検査結果ばかりを気にしていた日々でした。

そのようなときに、大学の先輩である浪越建男さんより藤木省三さんをご紹介いただき、数々の症例を拝見しました。藤木さんの症例はどれも洗練された技術とスタッフ全員に共通認識されている病因論に基づいた治療と、深く確立された患者との信頼関係のうえで、素晴らしい結果を出されていました。一つひとつの症例にドラマのような感動があることに、予防歯科を諦めかけていた私には強いショックと深い憧憬を感じました。

また同じころに岡賢二さんの著書「病因論と時間軸で語る」（クインテッセンス社刊）に触れ、累計1,000年の81症例を通じて、メンテナンス長期症例の実際を知りました。成功例だけではなく失敗例も載せられていて、すべての症例の横に「読み解く鍵」が添えられていました。「鍵」には「Science」と「Story」があり、すべての症例の背景には「知識や技術」と「語り」があることを知らせてくれました。

ヘルスケア診療は、一人ひとりの患者の健康を守り育てるものです。そのために確かな技術と知識だけではなく、患者の人生に向き合うような姿勢が大切であると学びました。基本治療の先にあるヘルスケア診療「歯周基本治療からはじまるヘルスケア歯科診療」と題して開催された昨年のヘルスケアミーティング（以下HCM）2024で、ヘルスケア診療所の中核である歯周基本治療について話し合われました。X線規格写真、口腔内規格写真、歯周組織検査の重要性、基本を改めて再確認するかたちでした。また野村朱美さん（大西歯科）より、ヘルスケア診療のためのチーム作りについて講演があり、チームのための環境作り、院長の役割が提議され、その後のディスカッションも含めて大いに盛り上がりました。今年の1日目のメインテーマは「語り合う 歯周基本治療の実践 ひとをみるヘルスケア診療のためのアプローチ」。昨年のテーマを踏まえた内容です。昨年のHCMにおいて再確認した歯周基本治療のための手技、検査はヘルスケア診療を行ううえで必要不可欠なツールです。そのツールを用いて日々の診療を行っている、その先にある疑問に気づかされます。検査値の結果だけに一喜一憂するのがヘルスケア診療なのでしょうか？正しい手技を行っても改善しなかった歯周炎には何か見落としたものがあるかもしれません。院長が気づかなかったことをスタッフの目線からなら気づくこともあります。ヘルスケア診療とは、「歯をみる」「口をみる」だけではなく「ひとをみる」ことで、その患者の人生と健康を見守ります。手技や検査を踏まえた先で「ひとをみる」ことこそヘルスケア診療の醍醐味でしょう。広い視野で患者を診て、癒し、その人生に関わり続けることがヘルスケア診療所に求められます。今年は、それを目指して行った医院の改革・チームづくりの事例を紹介し、そこから得た症例・経験を提示したいと思います。皆さんと一緒に「ひとをみる」ということを考えていきたいと思います。語り合う 歯周基本治療の実践今年のHCMでは、長年われわれのロールモデルとなっている大西歯科の新しい取り組みと、それを目指して行った4医院の改革やチームづくりの事例から、症例を基に紹介して、皆さんと一緒に「ひとをみる」ことを語り合ひましょう。昨年と同様、アンケートやディスカッションを通じて、参加される皆さんが積極的に考えを主張できるかたちを用意しています。昨年のHCMに参加できなかった方々にも、歯周基本治療を通じてヘルスケア診療だからできる可能性を知る機会を提供できたら幸いです。多くの方に参加していただき、たくさんの方の考え方に気づく機会になればと願っております。HCMに参加したあと、得られるものは各自それぞれでしょう。それぞれが得たものを医院に持ち帰って、患者利益につながるよ

2025.4.24

うな会にしたいと思います。